

宗教のおこりと三大宗教

古代の宗教は、どのような地域でおこり、どのような特色を持っていたのでしょうか。

自然の働き
病気・貧しさ
人間をこえる力

神～教えを説く者
儀式、聖典

宗教のおこり



B. C. 5 世紀 インド

仏教

シヤカ (釈迦)

世の中に多くの苦しみ
修行により、さとりを開けば
安らぎを得られる
東南アジア、中国、日本に伝わる

紀元前後

西アジアのパレスチナ地方

キリスト教

イエス

ユダヤ教 (唯一の神 ヤハウェ) が基
人は罪を負っているが神の愛を受けられ
ること
弱者を思いやること
教えを「聖書」にまとめる

6 世紀

アラビア半島

イスラム教

ムハンマド

ユダヤ教やキリスト教が基
唯一の神 アラーに従うこと
聖典の「コーラン」

多くの人々が生活する文明の発達した地域で、苦しみからのがれ、成功や発展を願って神に祈る宗教がおこり、世界に伝わった。